

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390102525		
法人名	株式会社PLUNURSE		
事業所名	グループホームCruto		
所在地	熊本県熊本市南区城南町東阿高一ノ尾1279-1		
自己評価作成日	令和6年 11 月 12 日	評価結果市町村報告日	令和7年 1 月 8 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和6年 11 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訪問看護が母体にあるため、看護やリハビリとの連携ができ、医療面は強く、医療依存や介護度が高いかたでも安心して暮らせるようにサポート体制が整っている。また地域の医院との連携もとれており看取りの実績もある。地域の住民の方とのつながりも増え、馬追いの慰問、音楽会や折り紙教室、季節の行事を行ったりすることで、入居後も四季を感じながら楽しい生活が送れるように実施している。また、ご家族との関係も重視し、ライン等のSNSを通じて入居者様の写真をお送りし、遠方で面会が困難なご家族に対しても様子が分かるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設間もなくのコロナ禍で御苦労なされていた地域との関わり作りも実を結び、今年度の訪問では様々な取り組みや実践状況をうかがうことができました。訪問看護事業を母体とされているため介護度が高い入居者も多くおられますが、「利用者と一緒に」を大切にし、「出来るか出来ないかではない、一緒にできるようにお手伝いする」介護に取り組んでおられる姿が印象的でした。ケアの中でも選択を促す言葉遣いもよく見られ、様々な認知症状・身体状況をお持ちの入居者それぞれに、「その人・その日、日々検討しながら」のケアが行われています。運営推進会議や家族だけでなく、地域に住む職員からの地域の情報から外出に繋がったりと、皆で支え、入居者の充実した生活のために取組まれる様子がありました。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境を提供できるように笑顔で接し、入居者一人一人の対応を小さなことでも週1回のミーティングや毎朝の朝礼でも共有を行い、実践につなげている。	アットホームを謳う理念の実現のため開設以来取り組んでいる。ケアの場面で言葉遣い等気になる際には、理念を基に振返りの場を持つ機会もある。	開設6年目を迎え、来年度の新ユニットの増設に向け、職員の異動・採用等も見られるようです。新たなスタートを機会に、職員間で理念の意味を考え、振り返りの場を設けるとともに共有する機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的ではないが、2回ほど地域の方々に施設内に慰問に来て頂いた。また近くの保育園からも園児が2ヶ月に1回ほど訪問し、交流を行っている。	開設以来の取組みや運営推進会議・職員の情報交換等で地域との関わり作りが進んでいる。今年度は近くの小学校の記念式典見学に出向いたり、マラソンで通る中学生の応援も予定している。入居者の希望があれば職員が地域のスーパー等へ同行し買い物に出向いたり、移動販売車の来訪もお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	インスタグラムやFacebook等のSNSを通じて事業所で行った行事等の発信を行っている。地域の小中学校の行事にも参加した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を開き、報告や話し合いを実施。参加されなかったご家族等には資料を郵送し報告をしている。	年6回の運営推進会議では事業所での取組みや状況報告とともに職員研修の内容や身体拘束への取組み等も報告している。参加者との質疑応答も活発に行っている。今年度は、新ユニット開設に関する報告やスタッフの募集についても意見を得た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的な報告は行っていないが、2カ月に1回の城南町のグループホーム連絡会議時には区役所の福祉担当者が来られるため、意見交換を実施している。	報告・連絡・相談や手続き等は必要に応じ都度行っている。運営推進会議には地域包括支援センターより参加頂き、2ヶ月に1回の町グループホーム連絡会議では市担当者との意見・情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているが、スタッフは施錠の意味を理解して実施している。身体拘束を行っているが、毎週金曜日にカンファレンスを行い、極力身体拘束を行わないよう検討をしている。	年4回職員間で勉強会を実施しており、運営推進会議でも報告している。身体拘束をしないケアを基本としており、やむを得ない場合は都度検討を重ね、できるだけ拘束を行わない工夫や短期間で解消できるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回は身体拘束、半年に1回は虐待予防に関する勉強会を実施。定期的にスタッフへ虐待に関する意識調査を実施している。		

グループホームCruto

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	熊本市や厚生労働省の資料をもとに、定期的に勉強会を実施。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の説明後には不安や疑問点をお尋ねして承諾を得るように行っている。改定時は書面や電話連絡にて対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時やSNS(ライン)を利用し意見やご要望を聞く手段を設けている。その意見や要望は朝礼や職員間のグループラインに発信し、情報共有を図っている。	コロナ5類移行後、面会受入れを再開した。面会等家族来訪の他、LINEを利用して意見や要望を得ており、職員間で共有し、法人にも報告している。運営推進会議でも意見交換が行われ、会議不参加の家族には郵送している。クレームとなった際には苦情処理受付の流れに則り対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	基本的に週1回ミーティングを行い、意見や情報の共有を図っている。また必要に応じて全体ミーティング等も実施。参加できなかったスタッフにはラインで情報共有している。	職員は日頃より管理者へ意見や提案を表すことができる。毎週及び必要に応じて随時ミーティングを開催しており、業務改善についても意見を出し合うことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度も賞与2回支給。個々の今後の目標等を聞きながら長く勤めることができるよう情報収集を行い、働きやすい環境や条件の整備に引き続き努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	接遇の研修に参加する機会を設けた。今後引き続き参加できるよう案内や勤務調整は行っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会議に定期的に参加したり、グループラインにて、勉強会や活動報告の共有を図り、質の向上に努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずヒアリングをし、趣味や生活歴を情報収集して、入居後も継続して行えるように検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のヒアリング時には本人様とご家族様に不安や要望等を必ずお尋ねしている。入居後も定期的にSNS(ライン)や電話を通じて連絡を行い関係づくり努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ヒアリング時に得た情報に優先順位をつけて対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の状態を確認し、個々に合わせたケアの提供に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診時は、ご家族の状況に応じて送迎や付き添いをお願いし、ともに支えていく関係であることを説明し、お願いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の馴染みのあった方の面会があったり、感染症の流行状況に応じてではあるが、外出や外泊も適宜許可している。また馴染みのある近隣の小学校のイベントの見学に参加したこともあった。	面会受入れを再開したことで、入居者の幼馴染等知人の来訪も見られる。入居者と家族の関係にも継続して支援しており、家族との外出・外泊もあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の入居者の性格を把握し配慮した上で、食事の席を決定している。個々の関係性を把握した上で洗濯物量みなどを協力し合える支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	認知症状の悪化により入院となられた場合にも定期的に相談員へ状況確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で意思表示できる方には本人の希望、意向を確認し、意思表示できない方に関してはご家族に昔のことをお聞きしながら意向を参考にして検討をしている。	日頃の寄り添いや会話を通して都度確認把握しており、意思表示が難しい方には選択を促す言葉掛け等の工夫を行っている。意思のくみ取りが難しい場合は家族等にも確認しながら本人本位のケアに繋げている。なるべく入居者本人の訴えを聞きながらのケアは職員面談でも普段のケアの基本とされていることが確認できた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	既存の入居者様は主にカルテやご家族から情報を得て。また新規の入居者様は本人様やご家族、ケアマネさんから情報提供して頂き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して個々のスタッフがお1人お1人の状態把握を行い、申し送りや伝達簿などを通じて情報共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へは電話で連絡しご意向やご希望を確認。課題とケアについては職員にモニタリングをして介護計画を作成している。またミーティングで出た要望等を実現するためにケアマネへ伝えている。	課題とケアについては毎日の朝礼等で共有し、半年ごとを基本とするモニタリングは管理者と職員で行っている。日頃の入居者の様子や意見、職員・家族の意見等により介護計画の見直しを行っている。状態変化時は都度介護計画の変更を行い、現状に即した介護計画の作成を行っている。	介護計画作成担当者出勤時は入居者・職員へ状況をよく確認され、入居者本位の計画となるよう家族への連絡もされていることが確認できました。現在、担当者会議は職員間で開催し家族へ報告されているようですが、可能な御家族の参加声掛けも検討されてはいかがでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	週1回のミーティングや申し送り等で職員間の情報を共有。それを活かし計画や実践の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の体調の変化や認知面の悪化によりより対応の変化が生じて、柔軟な支援ができるよう心がけている。		

グループホームCruto

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例大祭、敬老祭などのイベント時は外部から団体を招いた。近隣の店と一緒に買い購入したり、近所のスーパーの移動販売の利用も行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	精神科等のかかりつけ医がある場合は引き続き優先し受診している。内科医に関しては入居時にご家族と相談して決定し、適宜状態変化があった際は電話で報告したり必要に応じて受診したりしている。	入居以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援している。現在は内科は往診であり、他専門機関受診の際は家族による通院を基本としている。看護師資格を持つ職員も勤務し、必要に応じて訪問看護の受入れも行っていることから医療機関との連携体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細なことでも看護師へ情報提供している。訪問看護が介入している方へは訪問看護師にも情報提供を行い適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は定期的に入院先の相談員へ連絡し、情報収集に努めている。また必要に応じて入院先の病棟にヒアリングに伺うこともあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に必ず意思確認を取り、入居後も年1回は確認を行っている。適宜状態変化が予測される場合、又は変化があった場合はすぐに主治医やご家族へ連絡し方針を決定し、みんなで支援を行っている。終末期は付き添いも出来るよう支援している。	入居時に重度化や終末期に向けた事業所の方針と対応を説明している。実際にその時期を迎えた際には、家族や主治医等と話し合いを重ね本人の最善に向けた支援を行い、家族も居室で時間を共に過ごして頂く例もある。職員には看取りに関する研修を行っている。指針については定期的に追加・訂正等見直しを行っている。今年度は経験を踏まえ、連携や家族との関わりについての振り返りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	既存の急変時のマニュアルをもとに、適宜応急処置の訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での研修や訓練は実施している。地域のグループホームとも交流し、災害等で互いに支援可能なものの情報共有を行っている。	避難訓練後は反省・気付きへの対策を検討し次回に活かしている。今年度はBCP訓練を兼ね、台風接近を機会に発電機の動かし方の共有や非常食を実際に食べることで新たな気付きもあった。特に非常食の提供については、作り方や量、提供方法等の共有にも繋がった。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時々配慮に欠けた言葉掛けをしている現場を目にすることがあるため、当事者にはその都度注意している。定期的に虐待の勉強会を実施し、意識改善を図っている。またお互いに注意しあったりしている。	医療が必要な入居者もおられる中、「なるべく入居者本人の訴えを聞きながら」「一緒にできるようにお手伝いする」ケアを行っている。時に職員の声が大きくなったり配慮に掛ける場面が見られた際には声を掛け合い、注意しあうことができる体制である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴し、本人の訴えを聞いて行動に移している。意思表示が困難な方には希望に添えているは不明ではある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフ側の都合で行動することもあるが、可能な限り本人のペース、希望に沿って支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思決定ができる方は、靴や洋服をご自分で選んでもらう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事に合わせた献立やお誕生日会や食思低下時、看取り時など、好きな食べ物を聞いて提供をしている。テーブル拭きや下膳ができる方は一緒に行っている。	事業所で手作りの食事を提供し、入居者の日々の体調等にも臨機応変に対応できる。行事食やイベントにちなんだ献立も考えられ、事業所の庭で栽培した野菜も随時食卓にのぼる。入居者の状態も様々であり、その方、その日、その時々日々検討しながら、一緒にできることを手伝う支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その時の個々の状態に応じて食事量や食形態、食器類を工夫・提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に応じた口腔ケア方法で実施している。歯科の往診ではアドバイスをもらったり情報共有も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁等が増えた場合などはトイレ誘導の時間を調整したりし、個々の排泄パターンを把握した上で、オムツやパッドの使用方法や使い方の見直しは適宜行っている。	入居者それぞれに合わせ、昼間は時間や本人の仕草・様子による声掛け誘導等を行い、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間もそれぞれにあわせた個別対応を行っている。パットやオムツの移行や変更は検討を重ねた上で家族にも了承を得、入居者にとってよりよい環境になるようにしている。家族の費用負担にも配慮し、使用方法や使い方の見直しも随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のデザートやおやつ時にヨーグルトを提供したり、また確実に水分を摂取してもらえるよう、飲み物の内容を工夫したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その人の気持ちに寄り添いながら個々の体調や気分に沿って曜日を臨機応変に対応している。また入浴が楽しめるよう入浴剤を使用したりしている。	週2回の入浴を基本としている。事業所内に機械浴を含め浴室が2ヶ所あり、介護度が高くなっても入浴ができる。入浴後の服を選ぶ際は職員から入居者へ選択を促す言葉を掛け、入居者の意向も確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後などに椅子に座ったまま傾眠される方がいれば、ベッド臥床するなどして対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ全員がそれぞれ個々にどんな薬が処方されているのかを把握できていないが、看護師や各勤務帯のリーダーが主になって把握し服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや脳トレ、毎月の季節の行事を行い喜びや楽しみを提供できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染症の流行もあるが、その日の状況で買い物支援やイベント参加を行っている。紫陽花やコスモスの見学は実施。中庭や近所への散歩は適宜行っている。	立地による安全面より玄関の施錠はあるが、希望があれば外出は可能であり、中庭は自由に出ることができる。今年度は計画による外出だけでなく、日々の職員体制にもよるが、近隣の小学校でのイベントや季節の花見等、その日に出かけることもあった。家族の協力による外出や外出もみられ、誕生日に宿泊旅行に行かれた入居者もおられる。	

グループホームCruto

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本金銭管理は施設スタッフが行っているが、ご家族や本人の希望でご自身で管理され、移動販売が来られた場合は支払えるよう支援していた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をしたり手紙が書けるように準備したり支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるように、毎月手作りのカレンダーを作成したり、季節の飾り物を配置したり工夫を行っている。空調管理には適宜留意している。	玄関を入ると厨房を中心に各ユニットが左右に位置している。訪問時は季節の壁飾りを作成する入居者の姿もあり、一人が好きな方は共用空間で一人で過ごしたり、居室におられる方、外を眺める方等、思い思いに過ごしておられる姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の関係性を考慮しながら、適宜テーブルやソファの位置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、自宅で使用していた家具や椅子を持ち込み、レイアウトを工夫し、使い勝手がよいように工夫をしている。	押入れと洗面台が設えられている居室では、入居者の身体状況や生活に配慮し、ベッド・布団等、それぞれに合わせた環境を整えている。家族写真等もあり、居室内の様子は家族の関わりも見られる。臥床状態に配慮が必要な入居者には、理学療法士よりのレクチャーを受け、ポジショニングを写真で示した居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの建物に、廊下や脱衣所、トイレは手すりが設置されており、自由に生活ができるよう工夫されている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームCruto

作成日 令和 7年 1月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	3ユニット目の増設にむけて、新しいスタッフへの理念共有と教育、体制作りが必要である。	新しいスタッフ向けの指導内容の見直しと、業務内容やマニュアルの見直しを行い、3ユニット開設後のトラブルをなるべく少なくする。	1. 現体制とマニュアルの見直しを行い、3ユニット向けに変更を行う。 2. 新スタッフへの教育体制を整え、こまめにミーティングを行う。	6カ月
2	26	担当者会議は行っているが、ご家族とケアマネが直接対面し会議に参加する機会が少ない。	ご家族参加の担当者会議を増やす。	1. 会議への参加の声掛けを行う。 2. 遠方や日程が合わずに直接参加が難しい場合は、今まで同様、面会時等に伺う。	2カ月後
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。